

「教団と安信氏大昔から関係」

細田議長与野党に説明

細田博之衆院議長は24日、議長公邸で与野党の代表者（面会）・世界平和統一家庭連合（日統一教会）との自らの関係をめぐり、国政選挙での教団票の差配について、「一切ない」と否定した。一方、安倍晋三元首相も教団とのことは「大昔からの関係が深く」との認識を示した。面会は非公開で行われ、野党が求めさせていた記者会見とは「議員の立場であるわけじゃない」との理由で応じなかった。

▼3面=疑惑否定

べた動画がインターネット上で拡散したことについて説明。「（教団が）安倍総理と近い団体と知っていたので、リップサービスとして書いた」と認めた。

実際とは、安倍氏とは報告しなかったとした。教団との関係で、派閥として安倍氏との間に引き継ぎがあったかどうか問われると、「特になし。安倍総理

細田氏が会長だった2011年6年の参院選で、清和会の高島貴文・前参院議員が朝日新聞の取材に、教団側の支援を受けたことを認めている。
(松山穂乃)

は大昔から関係が深い。」
ちらは最近だから」とも語った。安倍氏と教団の関係をめぐり何を聞いていたかについて、「長い間に実感していた。誰から聞いた感じ」といふことではない「など」と述べたところ。
細田氏自身は、派閥会長として国政選挙で教団票の差配をしていないとした。



細田氏は2021年11月、安倍氏と自民党最大派閥・清和会（現安倍派）の会長を引き継いだ。議長就任と共に、自民派を離脱してくる。安倍氏は近い要職の経験者が、安倍氏と教団の近れを國会に語めたの

は初めて。面会は懇談形式で約1時間行われ、1分間の冒頭撮影のみ記者団に公開された。その後、衆院議院運営委員会の各会派の代表者6人がそれぞれ数分間質問し、細田氏が説明する形で進められた。野党側の出席者は6人によるが、細田氏は19年10月、教団の輪鶴子総裁が出席した会合で「余の内容を安倍総理に『余の内情を安倍総理に語った』と誤解した」と述べた。

疑惑否定公に語り出す

細田氏、旧統一教会悪い団体の認識なし

沈黙を続けてきた細田博之衆院議員が24日、世界平和統一家庭連合(旧統一教会)との接点について、非公開の場で初めて与野党各派の質問に答えた。「やあしごうな付き合ってはなかった」と語り、政策への影響や教団票の差配については否定した。各会派の質問は事前に細田氏に通知された今回の「懇談」において、今後公の場で説明するつもりはないで区切られた。

▼一面参照

そんな教団との関係をめぐる疑惑について、細田氏は以下の如次々と否定した。

支援の見返りに政策をめぐるにはあったかと問われると、「議長就任前も後も決してあります」。教団についても「一切無い」。教団についても、「既に」としているのは、「既に」としている団体だという認識はなかった。安倍さんの事件以降、様々な報道がありびっくりした」と述べた。

細田氏の回答は、「何をやったかわからないけれども、やめてしまった」と述べた。安倍さんの事件以降、様々な報道がありびっくりした」と述べた。

細田氏は、「特別扱い」されてきたもので、やめてしまった付替ではなかった。淡々とも明らかにならなかった

■細田謹長の説明を受けた各会派の評価と今後の対応

【自民党】「説明責任は果たした。なぜ（野党が）これほど争点にして聞いてくるか正直疑問」（盛山正仁氏）

【公明党】「誠実に十分に答えた。メディアの前で話をするのと非常に近い、透明性を持った形で懇談した」（岡本三成氏）

【立憲民主党】「一步前進だが、説明責任を果たしたか疑問。会見などオープンな場で国民に説明を」（笠浩史氏）

【日本維新の会】「十分ではないが一定の前進。この段階で一つの区切りとしたい」（中司宏氏）

【国民民主党】「票の差配をした事実がないという確認ができた。議長へのさらなる求めは国対の協議で決めるべきだ」（茂野哲氏）

【共産党】「これまで終わりではない。議長自身が丁寧な説明をオープンの場でするよう働きかけていく」（塩川鉄也氏）

沈黙を続けてきた細田博之衆院議員が24日、世界平和統一家庭連合(旧統一教会)との接点について、非公開の場で初めて与野党各派の質問に答えた。「やあしごうな付き合ってはなかった」と語り、政策への影響や教団票の差配については否定した。各会派の質問は事前に細田氏に通知された今回の「懇談」において、今後公の場で説明するつもりはないで区切られた。

▼一面参照

細田氏と旧統一教会問題をめぐる経緯
14年12月 潤和政策研究会(現安倍派)の会長就任
19年10月 関連団体のイベントで「今日の盛会を、会の内容を安倍総理にさっそく報告したい」などとあいさつ
21年11月 衆院議長に就任。派閥会長を退き、後任に安倍氏が就く
22年9月 8日、自民党の所属国会議員への点検では「対象外」に、朝日新聞などのアンケートには回答せず
29日、教団との接点を認める文書を発表。関連団体の会合に計4回出席したことなどを認める
10月7日、再説明の文書を出す。関連団体の会合への出席が4件増え
て計8件に
23年1月 24日、衆院各会派の代表者と議長公邸で懇談形式で質疑

細田氏が認めた教団との接点
関連団体の会合出席 広報紙誌への記事掲載
・14年2月 インタビュー取材
・16年3月 (掲載記事は確認できず)
・17年3月 選挙のボランティア支援
・18年3月、10月 地元の関係団体から賛持するとの意向があった
・19年3月、10月 (具体的な支援は確認できず)
・21年6月 計8件

会合への祝電など
・17年10月
・18年9月
・21年6月 計3件

残っていた難問点
・派閥元会長として組織的開与はどうだったのか?
・教団票の差配の実態は?

細田氏と教団の接觸が報じられたから約半年。「三橋の邊でもある衆院議員

細田氏は、「特別扱い」されてきたもので、やめてしまった付替ではなかった。淡々とも明らかにならなかった

細田氏は、「特別扱い」されてきたもので、やめてしまった付替ではなかった。淡々とも明らかにならなかった

記者会見「やめわしくない」

細田氏は、「既に」としているのは、「既に」としている団体だという認識はなかった。安倍さんの事件以降、様々な報道がありびっくりした」と述べた。

細田氏の回答は、「何をやったかわからないけれども、やめてしまった」と述べた。細田氏は、「特別扱い」されてきたもので、やめてしまった付替ではなかった。

細田氏は、「特別扱い」されてきたもので、やめてしまった付替ではなかった。

細田氏は、「特別扱い」されてきたもので、やめてしまった付替ではなかった。

細田氏は、「特別扱い」されてきたもので、やめてしまった付替ではなかった。